

市議会議員

頑張ろう行田!!

H30 秋号

ほそや美恵子 保守系無所属

ニュースレター



◎複式学級の解消は喫緊の課題！

現在、北河原小学校と須加小学校が複式学級となっており、平成32年には星宮小・太田東小も複式学級になるようです。特に北河原小学校は、複式学級が10年間も続いており、今は全学年複式学級です。

過小規模校 小学校5学級未満
小規模校 小学校6~11学級

本年7月、「行田市総合教育会議」で将来の行田市小・中学校の適正数が示されました。

今から約25年後には、小学校は現在の16校から8校へ、中学校は現在の8校から4校へ減数するのが適当としています。

今や、全国的にも学校の統廃合は避けて通れない問題になっています。統合に成功している自治体は、

- ①全体のスケジュールを綿密に立て、
②その計画をオープンにし、
③随時情報提供をしながら、
④2~3年で成果を出します。
⑤施設は既存のものを使い、
⑥スクールバスを走らせることとし、
⑦校名・校章・校歌などは新設する、
ということを「成功のポイント」としているようです。

小学校 学級数 推移

Table with columns for school names (東小, 西小, 中央小, 南小, 北小, 北河原小, 荒木小, 須加小, 埼玉小, 星宮小, 太田西小, 太田東小, 下忍小, 泉小, 桜ヶ丘小, 南河原小) and rows for years (昭和60年度, 平成30年度, 平成32年度, 平成37年度). Total number of classes is shown in the last column.

行田市教育委員会調べ

小規模校 中学校3~11学級

中学校 学級数 推移

Table with columns for school names (忍中, 行田中, 長野中, 見沼中, 埼玉中, 太田中, 西中, 南河原中) and rows for years (昭和60年度, 平成30年度, 平成32年度, 平成37年度). Total number of classes is shown in the last column.

行田市教育委員会調べ

教育委員会は、「子供の教育は待たなし」と言いながら、10年も「待た」を強いている。市長は、「行田市は教育環境ナンバーワン！」と言いながら、こういった状態を見過ぎて来た。

私は、9月行田市議会定例会で、市長・教育委員会に質しました。

「子供たちのことを第一に考え、今すぐに対応すべきだ。過去の対応の反省に立った上で、具体的なスケジュールを作り、すぐに着手すべきである」と。

これに対し、市長・教育委員会は、

「11月に『公立学校通学区域等審議会』を立ち上げ、今年度中には必ず行田市全体の新たな再編成計画を策定する。また、統合に成功している先進地視察にも行って情報収集してくる」と、約束しました。今後の迅速な動きを期待するとともに、協力していきたいと考えます。

## ◎ 新ごみ処理施設に、日帰り温泉は必要ですか。

建設候補地とされる鴻巣市安養寺は、県央ゴルフ場とみずほ斎場近くにあり、行田の小針クリーンセンターから、さらに9キロ南に位置します。行田市にとって施設の移転によって得られるものはほとんどないと考えます。

それに加え、今のままいけば、私たちは「余熱利用施設」の負担も背負い込むこととなります。鴻巣市内の施設を行田市民が利用することは、ほとんどないと考えます。

### 余熱利用施設の建設計画案

* 建設費	約11億円
* 延べ床面積	約2,100㎡（行田市 日帰り温泉 A 1,212㎡ ・ 日帰り温泉 B 422㎡）
* 施設内容	内風呂・露天風呂・サウナ・岩盤浴・うたせ湯・食事処・喫茶室・休憩スペース・リラクソコーナー・キッズスペース

もしこの計画が実現すれば、行田市に現在2つある日帰り温泉の規模を、はるかに超える大きいものになります。そしてその建設費には補助金の交付はなく、構成三市が負担することになります。

私は次のように考えます。

1. 行田市内の既存の2つの民間施設より大きな施設は、地元還元施設としては規模が大きすぎる。総工費11億円もの施設は必要ない。
2. 構成三市(行田市・鴻巣市・北本市)で行う広域事業はごみ処理事業である。経営が難しいといわれている温泉事業をごみ組合がやっていくのは本末転倒である。

## ◎ 「少子高齢化対策」待ったなし！ 行田市も「ふるさと回帰フェア」に出展

9月9日、「ふるさと回帰フェア」(東京国際フォーラム)は、47都道府県370自治体が参加し、来客者2万人を超える熱気にあふれるものでした。わが行田市もブースを設け、移住希望者に対応しました。私も応援に行き、多くの方々、特に20～30代の方々が、真剣に移住を考えているのを目の当たりにしました。また参加自治体の中に京都市もあったのには驚きました。「観光客は多いけれど定住者少ないんですよ。」とのお話。京都でこれですから行田が観光で定住人口が増えると考えられません。

行田市に住む魅力を、もっとアピールしていったらどうでしょうか！

- \*「安心・安全」 災害、犯罪が少ない
- \*「安楽」 坂道がない、都心に近い
- \*「安価」 広い土地、家屋が求めやすい

人口減少はやむを得ない、とあきらめるのではなく、農業を含めた仕事の用意、中古住宅を含めた住居の用意、学童保育完備・複式学級の解消などの子育て環境の改善など、受け入れ態勢を積極的に整えるべきです。それが私たち行田市民にとっても、住みよい環境になるはずですから。

### 細谷美恵子

行田市荒木1019-3

☎ 048-598-8232

FAX 048-598-8234

HP [miekohosoya.com](http://miekohosoya.com)

ブログ [ameblo.jp/mimi68/](http://ameblo.jp/mimi68/)

Eメール [miekohosoya@yahoo.co.jp](mailto:miekohosoya@yahoo.co.jp)

